

授業科目名	幼児体育演習	教員名	城戸 佐智子	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	選択
					保育士	必修
					こども音楽療育士	
科目番号	HY0302	配当年次	3年後期	情報処理士		
授業形態	演習					
単位数	1単位					
科目						
施行規則に定める科目区分						
一般目標	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を構想する方法を身につける。					
到達目標	<p>(1)各領域のねらい及び内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2)当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3)幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4)各領域で幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等のつながりを理解している。 <p>(2)保育内容の指導方法及び保育の構想</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)幼児の認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 2)各領域の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 3)指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。 5)各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	子どもの発育発達と運動機能に関する知識について理解し、遊びの本質の理解のもとに、教育・保育施設で行われている運動遊びを実践する。また、新たな遊びの創造による身体表現活動を実践し、身体表現活動の指導の展開を学ぶ。アクティブラーニングとして、グループワーク、実践の振り返り、レポート等を取り入れる。					
履修条件・注意事項	保育士資格必修科目である。 毎回体を動かす活動をするため運動ができる服装で受講し、体育館シューズを必ず持参すること。					
授業計画	<p>第1回：授業の取組みに関するオリエンテーションと身体遊び（目標(1)-1），(2)-1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育の各領域のねらいについて理解する。 ・本授業の方針、進め方、評価について理解する。 ・身体を使った遊びを体験し、幼児教育との結びつきについて考察する。 <p>第2回：鬼遊びの意義と重要性（目標(1)-2），(2)-5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発育・発達と運動機能に関する知識について理解する。 ・幼児期に鬼遊びをする意義と年齢ごとの発達について理解する。 <p>第3回：鬼遊びの展開（目標(1)-2），(2)-5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な鬼遊びを体験し、保育現場での展開を考察する。 <p>第4回：基礎基本の運動と子どもの遊び：サーキット遊び①（目標(1)-2），(2)-1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体運動の知識と技術（歩く、走る、はう、止まる、跳ぶ、回る）について理解を深め、活動に取り入れる。 <p>第5回：基礎基本の運動と子どもの遊び：サーキット遊び②（目標(1)-2），(2)-1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体運動の知識と技術（投げる、受ける、押す、引く、伸びる、曲げる、そらす）について、理解を深める。 ・グループでサーキット遊びを組み立て、実践し、幼児期に経験が必要な体の動きについて理解を深める。 <p>第6回：子どもの遊びを豊かに展開する伝承遊び（目標(1)-2），(2)-1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な遊びを自ら実践し、幼児期に必要な運動遊びについて考察する。 ・幼児期の運動発達に沿った遊び指導の留意点と保育者の役割を場面にに基づき考える。 <p>第7回：子どもの遊びを豊かに展開する基本の身体表現活動（目標(1)-2），(2)-2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模倣（ごっこ）遊び、見たて、劇遊び、運動遊び等に見る子どもの経験と保育環境について学ぶ。 <p>第8回：既存の身体表現活動を組み合わせた身体表現活動の創（目標(1)-2），(2)-2）</p>					

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の過去の遊びや毎時間学んだ遊びを組み合わせたり書物等での関節体験の遊びを組み合わせたりして新たな表現活動について学ぶ。 <p>第9回：リズムに乗って楽しく踊る身体表現活動（目標(1)-3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで「すぐに動ける」「一緒に楽しく」をキーポイントに自分たちが選んだ音楽に乗ってダンスをつくって発表し、相互評価する。 <p>第10回：友達と楽しく踊る身体表現活動（目標(2)-1,2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体を思い切り動かす楽しさや友達と触れ合うことで生まれる感情・効果について知る。 ・既成のものからアレンジする面白さ、それによって広がる動きを楽しむ。 <p>第11回：動きからイメージへの身体表現活動（目標(1)-1, (2)-2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひと流れの動きを精一杯動き、そこから湧いてくるイメージを付加してまとまりのある表現にすることを学ぶ。 ・表現の手がかりとなる身の回りの自然、乗り物等をよく観察し動きのデザインにしておくことを理解する。 <p>第12回：イメージから動きへの身体表現活動（目標(1)-1, (2)-2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージから発想する形や動きを強調、集約、繰り返して自分らしい表現にすることを理解する。 <p>第13回：新たな身体表現活動の創造（目標(1)-1, (2)-3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まったく新しい発想で遊びを創造する。 ・新しい要素を事前にできるだけ考えておく。 <p>第14回：子どもの実態に応じた身体表現活動の展開（目標(1)-1, (2)-4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の視点からの手順や配慮の在り方を学ぶ。 ・保育の視点と観点について事前に考えておく。 <p>第15回：まとめ（目標(1)-1, (2)-3, (2)-5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的・実践的な指導計画の作成を学ぶ。 <p>期末試験</p>
授業外学修時間の確保について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <p>事前学習：毎回の授業計画に沿って学習内容を自ら調べてノートにまとめ、身体表現活動に関しては実際の動きを自分なりに創っておく。</p> <p>事後学習：毎回、授業で行った運動遊びや身体表現活動についてノートやワークシートにまとめ、復習する。</p>
学生に対する評価	<p>期末試験40%、ノート・レポート提出50%、取組姿勢10%で評価し、60%以上を合格とする。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
テキスト	<p>『保育と幼児期の運動遊び』 岩崎洋子著 萌文書林 ISBN：978-4-89347-274-8</p>
参考書・参考資料等	<p>『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 手作りによる学習ノート、その他適宜資料を配布する。</p>
担当者からのメッセージ	<p>保育には欠かせない運動遊びや身体表現を学ぶ科目である。実習での研究保育などに生かしてもらいたい。</p>
オフィスアワー	<p>授業日の放課後 Email：skido@miu.ac.jp</p>
備考	